

あの時から

私とその先生を初めて見たのは、小学3年生の時でした。その先生は中学校の先生で、隣のコートでバドミントンの指導を中学生にしていました。私はバレーを習い始めたばかりで、中学生が隣でやっていることさえも慣れていなかったあの時、その先生は生徒を厳しく指導していました。その姿がとても怖かったのを今でも覚えています。

中学生になった私は、部活動を決める際、その先生にだけは部顧問になって欲しくないと願っていましたが、それから3年間お世話になることになりました。ある日の部活動で、私たちの練習態度が悪い時がありました。いつもなら怒鳴られるところですが、その日は先生から集合がかかり、部訓についての話がありました。私の部活の部訓は、「克己復礼」でした。先生がその部訓の意味を部員のひとりに尋ねると、その部員は「分からない。」と答えました。私を含む全員が部訓の意味を完全に理解しておらず、改めて先生から教えていただきました。先生がおっしゃっていたのが「自分に打ち勝ち、礼儀正しく生きること。また、自分が他の人より優れていたとしても謙虚に生きることが大切だ。」でした。この言葉を聞いた時から、私の考え方が変化した気がします。

中学生の頃の私は、自分にできないことはやらず、自分より力が劣っている人と比べてしまう傾向が強く、また、目上の人への礼儀が正しくできなかったと反省することばかりです。そんな私が変わることができたのも、その先生からの指導があったからだと思います。中学時代、お世話になりっぱなしだったあの先生は、知人の話によると教育委員会にお勤めになっているということでした。また会うことができるなら、感謝の気持ちをお伝えしたいです。

太田 早紀
(大学生)